

地震大国である国内においては、戦後復興期より今日に至るまで、非木造であるコンクリート構造物群により、永きにわたり構造安全性や耐震性に優れる社会のインフラが構築され、現在は、ライフラインを守る生活インフラとしての位置づけを確立しました。更に、国指定の重要文化財や登録有形文化財など、長寿命化した構造物が存在する社会環境となり、世界的な建築家であるル・コルビュジェ (Le Corbusier: 1887-1965) が設計したいくつかのコンクリート建造物などは、世界遺産に登録され、コンクリート構造物の遺産的な価値が世界的に認められる時代が到来しています。

また近年、世界的な取り組みとして、SDGs「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」が強く推進されており、ゴール9の「産業と技術革新の基盤をつくろう」、ゴール11の「住み続けられるまちづくりを」などは、建設分野の役割が強く意識された取り組みとなっています。

持続可能な社会に資する生活インフラとしてのコンクリート構造物に対してこれまで蓄積されてきた非破壊検査に関わる一連の技術は、DXやICTによる新たな技術展開を踏まえた形で、強靱な生活インフラとなるように技術・社会面から大きな貢献を果たし、皆が快適に住み続けられるまちづくりを支援し続ける必要があるといえます。

2003年より開催されております本シンポジウムは、これまで新技術の開発事案の共有に始まり、非破壊検査に携わる技術者を結ぶ産学官連携の活動を展開してきました。そして、広く非破壊検査技術を普及する標準化に関わる情報共有の基盤ともなっており、日本非破壊検査協会規格NDISにおいては、放射線透過、弾性波、電磁波レーダ、電磁誘導など21の試験方法が制定されてきました。近年では、2023年10月にNDIS 3438「コンクリートの反発速度比の測定方法」が、2023年6月にNDIS 3440-1「コンクリートの非破壊試験—水分抵抗性試験 第1部：一般通則」を始めとする、水分抵抗性試験に関わる第4部まで規格が、2022年11月にNDIS 3439「コンクリートの小径コアによる圧縮強度の試験方法」などが制定されており、広く使われるようになったNDISに関しては、NDISからJISへ移行されたものもあります。

以上を踏まえ、このたび第8回シンポジウムを「非破壊技術がまもる生活インフラ」と題して、論文発表、特別講演、パネルディスカッション、維持管理に関する技術PRプレゼンなどの幅広い内容で開催することとなりました。技術者・研究者・メーカー・学識研究者の方々などの幅広い年代からの参加者皆様と活発に情報交換を行うとともに、次代の担い手である学生諸君にも積極的にご参加していただき、非破壊分野への興味関心と若手技術者のレベルアップにも繋がる有意義な機会としたいと思います。

2025年の夏、生活インフラをまもる非破壊技術に関わる多くの皆様からの幅広いご参加・ご応募を心よりお待ちしております。

※本シンポジウムをCPD、CPDS対象プログラムとして申請する予定です。

## シンポジウム開催に至るこれまでの経緯

- 1989年「鉄筋コンクリート特別研究委員会」を設置  
産学官および公的機関の研究者、検査の実務に携わる技術者、試験機器メーカーの技術者等の委員によるコンクリート構造物に関する非破壊試験および検査技術に関する研究体制がスタート。
- 2003年「コンクリート構造物の非破壊検査への期待」と題し「第1回 非破壊検査シンポジウム」を開催。
- 2006年「コンクリート構造物への非破壊検査の展開」と題し「第2回 非破壊検査シンポジウム」を開催。
- 2009年「コンクリート構造物の非破壊検査」と題し「第3回 非破壊検査シンポジウム」を開催。
- 2012年「成熟社会におけるコンクリート構造物の非破壊検査の役割」と題し「第4回 非破壊検査シンポジウム」を開催。
- 2015年「非破壊検査が担うコンクリート構造物の調査・点検技術の高度化・効率化」と題し「第5回 非破壊検査シンポジウム」を開催。
- 2018年「コンクリート構造物を使い続けるために—非破壊検査の貢献—」と題し「第6回 非破壊検査シンポジウム」を開催。
- 2022年「持続可能な社会を目指して—非破壊検査の可能性—」と題し「第7回非破壊検査シンポジウム」を開催。

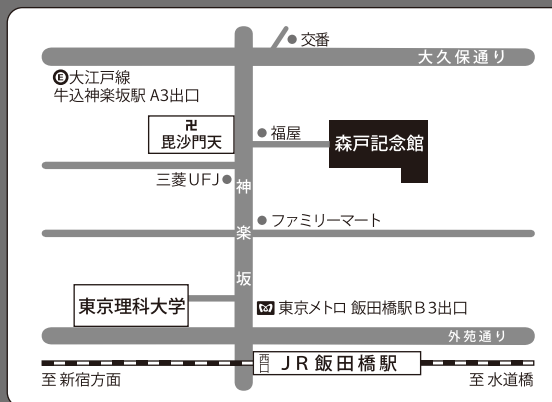
## 会場案内 (予定)

会 場：東京理科大学 森戸記念館

所 在 地：東京都新宿区神楽坂4-2-2

アクセス：JR「飯田橋」西口/東京メトロ「飯田橋」B3番出口  
から徒歩6分

都営大江戸線「牛込神楽坂」A3出口から徒歩3分



## 第8回 コンクリート構造物の非破壊検査シンポジウム

### 非破壊技術がまもる生活インフラ

2025年8月6日(水)～7日(木)

開催地：東京理科大学 森戸記念館 (予定)

論文募集・維持管理に関する技術PR  
プレゼンの募集など



※上記写真は当該管理者より特別な許可を得て主催関係者により撮影

技術PRプレゼン締切	2025年2月4日(火)
アブストラクト申込締切	2025年2月4日(火)
論文原稿締切	2025年6月3日(火)

主 催：(一社)日本非破壊検査協会

協 賛：(※依頼中)

(国研)建築研究所、(国研)土木研究所、(公社)日本コンクリート工学会、(公社)土木学会、(一社)日本建築学会、(公社)日本材料学会、(一社)日本マンション学会、(公社)腐食防食学会、(公社)日本鉄筋継手協会、(一社)セメント協会、(一社)日本非破壊検査工業会、(一社)ITECS技術協会、(一社)建設コンサルタンツ協会、(一社)日本赤外線サーモグラフィ協会、(一財)建築保全センター、(一財)土木研究センター、(一財)建材試験センター、日本建築仕上学会、(一財)日本建築総合試験所、全国生コンクリート工業組合連合会、(一社)ソフトコアリング協会

## 論文募集

コンクリート構造物の非破壊検査に関する論文・報告を広く募集します。

本シンポジウムで募集する論文は、非破壊検査、維持管理等に関連する未発表の内容、もしくは既発表の内容をとりまとめ、目的、方法、結果、考察等が明示され、それだけで完結しているものであり、調査事例、新技術の適用など、非破壊検査、維持管理等に関する有益な情報をとりまとめたものも含まれます。申込資格は特に問いませんが、発表者・連名者含めて原則5名以内とします。講演者(登壇者)1人につき複数題ご発表いただくことや、英文での投稿・発表も受け付けます。原稿の査読はなく、(体裁は論文編集委員会で確認)、前回からの3年間の非破壊検査・技術の最新の展開を広く募集することとします。

なお対象とする内容の例として、練り混ぜられた後のコンクリート、関連する材料・工事、およびそれらに関連した検査・技術・システムとされています。従って、単位水量推定や打込み中の検査、打込み直後の欠陥、凝結硬化過程における変化をはじめ、硬化後のコンクリートおよびコンクリート部材の物性評価、構造物の検査・調査・診断、モニタリング手法などのほか、仕上材、鋼材腐食、継手等の検査なども対象となります。検査の手法は、非破壊試験のほか、局部破壊(微破壊)試験も対象とします。また、構造物の調査・診断や維持管理のため近年の新しい支援技術(DX, ICT, ドローン技術, LCM, BIM・CIMの活用・連携, ストックマネジメント技術など)、実構造物の調査事例や新技術の適用事例なども対象とします。

## 維持管理に関する技術PRプレゼンおよび広告

非破壊検査機器の紹介を含め補修・補強技術、可視化ソリューション技術、モニタリング(計測)技術、維持管理支援システムなど維持管理に関する技術PRプレゼンでの発表および広告を募集するここにしました。

技術PRプレゼンは、シンポジウム中に開催されるセッションで、パワーポイント、ビデオ、実測定器、試験体、模型、パネルなどを用いて発表してもらいます。また、広告のみも受け付けています。

### ●タイプ①: 50,000円

プレゼン+スポンサーボード(大)+論文集への広告(A4 カラー1枚)

### ●タイプ②(広告のみ): 20,000円

スポンサーボード(中)+論文集への広告(A4 カラー1枚)

## 論文・技術PRプレゼンの申込方法

応募する論文は、日本非破壊検査協会WEBサイトにてお申し込み下さい。維持管理に関する技術PRプレゼン・広告は、日本非破壊検査協会HPから所定の申込用紙をダウンロードして、下記の問合せ先へメールまたはFAXにてお申し込み下さい。論文のアブストラクトおよび技術PRプレゼン・広告の申込み締切りは、ともに2025年2月4日(火)とします。

論文体裁は、4・6・8ページのいずれかとし、原稿の提出締切日は2025年6月3日(火)を予定しています。

なお、シンポジウムの詳細は、日本非破壊検査協会WEBサイト(<https://www.jsndi.jp>)に掲載いたします。

### 【新進賞について】

シンポジウム期日以内に満30歳以下の登壇者は新進賞の選考対象となります。授賞対象者は、当協会正会員(個人会員、団体会員の登録者)及び学生会員であり、非会員については、後日会員になることが条件です。ただし、既受賞者は対象外(学術関連の他賞を含む)です。

## シンポジウム参加者

### 事前受付

JSNDI会員及び登壇者	10,000円(12,000円)
一般	12,000円(14,000円)
学生	3,000円(4,000円)
懇親会費	3,000円(4,000円)

\*かつこ内は当日受付の参加費。

## お問合せ先

〒136-0071  
東京都江東区亀戸2-25-14 京阪亀戸ビル10階  
(一社)日本非破壊検査協会 学術課 三上 靖浩  
E-mail: [mikami@jsndi.or.jp](mailto:mikami@jsndi.or.jp)  
WEBアドレス: <https://sciences.jsndi.jp/reber>  
TEL: 03-5609-4015  
FAX: 03-5609-4061



## 委員会

### 組織委員会

#### 委員長:

澤本 武博/ものづくり大学

#### 委員:

今本 啓一/東京理科大学	内田 慎哉/富山県立大学
大下 英吉/中央大学	勝木 太/芝浦工業大学
鎌田 敏郎/大阪大学	阪上 隆英/神戸大学
塩谷 智基/京都大学	下澤 和幸/(一財)日本建築総合試験所
中田 善久/日本大学	野口 貴文/東京大学
濱崎 仁/芝浦工業大学	久田 真/東北大学
細田 暁/横浜国立大学	湯浅 昇/日本大学
渡辺 健/徳島大学	

### 実行委員会

#### 委員長:

田村 雅紀/工学院大学

#### 幹事:

大野健太郎/東京都立大学	岡 健太郎/職業能力開発総合大学校
田中 章夫/日本工業大学	中山 聡子/(株)日本インシーク
野中 英/(株)熊谷組	原田 七瀬/(一財)建材試験センター
宮田 敦典/日本大学	渡邊 悟士/大成建設(株)
渡邊 健/徳島大学	

#### 委員:

青木 優介/木更津工業高等専門学校	秋吉 善忠/大分大学
今本 啓一/東京理科大学	伊代田 岳史/芝浦工業大学
岩野 聡史/リック(株)	内田 慎哉/富山県立大学
江里口 玲/太平洋セメント(株)	笠井 浩/鹿島建設(株)
川俣 孝治/住友大阪セメント(株)	神田 利之/(株)ケミカル工事
北川 真也/佐藤工業(株)	木野瀬 透/(一財)日本建築総合試験所
蔵重 勲/(一財)電力中央研究所	小林 幸一/(一社)セメント協会
駒井 博之/鶴巻品質センター(株)	佐藤 大輔/(株)コンステック
高鍋 雅則/(株)アマック	高橋 力也/(株)ケツト科学研究所
辻 和幸/ユキクリエーション	中田 清史/建築研究所
埴 晴行/(一社)日本非破壊検査工業会	濱崎 仁/芝浦工業大学
春畑 仁一/(一社)構造耐力評価機構	福山 智子/立命館大学
前田 貴公/東海旅客鉄道(株)	松沢 晃一/明治大学
峰村 富夫/エフティエス(株)	森 啓考/計測検査(株)
森濱 和正/ものづくり大学	山崎 順二/(株)浅沼組
山下健太郎/(株)東洋計測リサーチ	山田 悠二/山口大学
吉沢 勝/(一財)首都高速道路技術センター	

### 論文審査委員会

#### 委員長:

濱崎 仁/芝浦工業大学

#### 委員:

青木 優介/木更津工業高等専門学校	秋吉 善忠/大分大学
内田 慎哉/富山県立大学	大野健太郎/東京都立大学
岡 健太郎/職業能力開発総合大学校	小林 幸一/(一社)セメント協会
田村 雅紀/工学院大学	山田 悠二/山口大学
渡邊 悟士/大成建設(株)	渡辺 健/徳島大学

### RC部門歴代主査

笠井 芳夫(1989~1995年度)	毛見 虎雄(1996~1999年度)
池永 博威(2000~2003年度)	野崎 喜嗣(2004~2007年度)
辻 正哲(2008~2009年度)	柳内 睦人(2010~2011年度)
森濱 和正(2012~2015年度)	湯浅 昇(2016~2019年度)
今本 啓一(2020~2023年度)	澤本 武博(2024年度~現在)